

●さぽーとほっと基金の現況について

市民や企業の寄付を基に市民の自主的なまちづくり活動を応援しようと平成20年4月に設置された「さぽーとほっと基金（札幌市市民まちづくり活動促進基金）」への寄付の累計金額が、ことしの2月末現在で8千万円を超え、同種の基金を設置している政令市6市の中で第1位となりました。同基金からはこれまでに、環境保全や子育て、高齢者支援、地域の安全など85の市民まちづくり活動に対して助成が行われています。

札幌市では、イベントと連携した同基金のPRをはじめ、企業名を冠したネーミングライツ基金や寄付付き商品の開発、ユニークな募金箱を利用した募金活動など、企業や地域住民との連携による取り組みを展開し、着実に実を結んできているところですが、昨年実施したアンケート調査によると、市民の同基金の認知度はまだ約1割にとどまっています。市民が市民の活動を支える「まちづくりの札幌スタイル」を確立するため、今後も同基金の効果的なPRや寄付を促す仕組みづくりに一層力を入れて取り組んでいきます。

1 寄付実績

累計：303件 80,496,472円

	平成20年度		平成21年度*	
	件数	金額	件数	金額
個人からの寄付	28件	4,666,000円	74件	16,003,721円
企業・団体からの寄付	119件	30,880,115円	82件	28,946,636円
合計	147件	35,546,115円	156件	44,950,357円

※ 平成21年度は2月末現在の実績。

2 団体登録実績

平成20年度：128団体

平成21年度：187団体（2月末現在）

3 助成実績

累計：延べ80団体・85事業 38,459,252円

	平成20年度		平成21年度*	
	件数	金額	件数	金額
団体指定による助成	12団体 ／13事業	21,403,500円	25団体 ／29事業	10,466,100円
分野・テーマ指定による助成	12団体 ／12事業	1,686,672円	31団体 ／31事業	4,902,980円
合計	24団体 ／25事業	23,090,172円	56団体 ／60事業	15,369,080円

※ 平成21年度は2月末現在の実績。

4 政令市の市民活動を支援する基金の状況

	基金名	設置年月日	寄付累計金額*
札幌市	札幌市市民まちづくり活動促進基金 (さぽーとほっと基金)	平成 20 年 4 月 1 日	80,496,472 円
横浜市	横浜市市民活動推進基金 (よこはま夢ファンド)	平成 17 年 4 月 1 日	75,834,739 円
浜松市	浜松市市民協働推進基金 (はままつ夢基金)	平成 15 年 7 月 1 日	1,879,165 円
大阪市	大阪市市民活動推進基金	平成 19 年 4 月 1 日	50,695,216 円
堺市	堺市市民活動支援基金	平成 19 年 4 月 1 日	9,961,918 円
福岡市	福岡市 NPO 活動支援基金 (あすみん夢ファンド)	平成 17 年 4 月 1 日	4,036,289 円

※ 寄付累計金額は 2 月末調査時点での実績。

問い合わせ先

市民まちづくり局市民自治推進室市民自治推進課（市民活動促進担当）

浅野、高橋 電話：211-2964

寄付文化を醸成するための主な取り組み（平成21年度）

ユニークな募金箱での寄付促進

からくり募金箱、丘珠獅子舞や新琴似歌舞伎にちなんだユニーク募金箱を制作し、地域の子育てや伝統文化を守るなど、目的が見える募金活動を展開。また、募金の受け皿として、企業、団体、市民による「さぼーとほっと基金を支える会」を設立、一体となって寄付文化の醸成を図りました。



丘珠獅子舞型募金箱

イベントなどでの寄付のPR活動



「RSR」でのPR活動

若者が集る「ライジング・サン・ロックフェスティバル（RSR）」での基金PRや寄付付き商品販売実験を実施。日本福祉用具供給協会の「いきいき福祉2009」での福祉用品の売上げの一部の寄付を受けるなど、各種イベントと連携したPRや募金活動などを展開しました。

寄付付き商品の開発

カフェ・アトリエテンマ様の地域応援ランチの売上げ等を地域の子育て活動の支援につなげる取組みのほか、洋菓子のきのとや様では、同社発祥の地にちなんだクッキー「南郷通」の売上の1%を南郷通周辺のまちづくり活動に支援する枠組みを構築しました（21年8月～12月の実績361,276円）。



クッキー「南郷通」

企業の社会貢献との連携

北清企業様は、ゴミ収集車にバイオディーゼル燃料を使用し、2008年359トンのCO₂排出量の削減を実現。地域への感謝を込めて、削減分として359,000円をモエレファンクラブへ団体指定で寄付。22年度以降もCO₂削減分を様々な活動に寄付いただくことに。同クラブのイベントでは、同社が子どもたちに環境保全の大切さを一緒になって教えるなど企業と活動団体との連携を創出しました。



環境教育の一場面

冠基金（ネーミングライツ基金）の開発



札幌生まれのおしゃれな保護帽「アボネット」しました。

特殊衣料様からは、30周年記念事業としての100万円寄付を原資に、初の冠基金「特殊衣料アボネット基金」を創設し、同社の北の冬を楽しくというコンセプトを活かし、冬のまちづくり活動に助成

その他

- 子どもの寄付文化醸成プロジェクト：全区の児童会館など12カ所で子どもたちが、基金の仕組みを理解し、マイファミリー募金箱を作成する講座を実施。
- 学生による寄付文化醸成プロジェクト：北星学園大学ボランティアが初心者向けにパソコン講座を開講、受講料のワンコインは、さぼーとほっと基金に寄付。
- 寄付付き自動販売機を設置：市民活動サポートセンター内に設置。



寄付付き自動販売

平成21年度、56団体、60事業へ助成

さぽーとほっと基金では市民が主体となって公益的な地域課題に取り組む事業に助成を実施しました。代表的な取り組みについてご紹介します。

「図書の再活用による読書環境の整備

活動事業」

「北海道ブックシェアリング」は一般家庭や企業・団体から不要な図書の提供を募り、それらをクリーニング、補修、選別を経て、図書不足に悩む公共的施設の図書館・図書コーナーに提供する事業を行いました。



図書の修復作業を行う北海道ブックシェアリング

「JR 白石駅思い出レンガプロジェクト」



イベントで参加を呼びかける白石ネット

「特定非営利活動法人白石ネット」は、新しく完成する JR 白石駅の自由通路や広場に、メモリアル刻印（名前）付きのレンガを敷く取り組みを通じて白石の郷土の歴史について伝承する活動を行いました。

「チャイルドライン全国共通フリーダイヤル周知キャンペーン」

「特定非営利活動法人チャイルドラインさっぽろ」は、小中学生を対象にチャイルドラインを紹介するカードを作成し、気軽に相談電話を利用できることを呼びかける活動を行いました。

また、相談員のスキルアップを図ることを目的とした研修会も実施しました。



チャイルドラインさっぽろの「受け手研修」

詳しい活動内容は市民活動のHP「寄附・助成状況」を参照してください。

<http://www.city.sapporo.jp/shimin/support/kikin/situation/index.html>